

テラス法における アンカーに代わる中間部接続法

ハイフレーム・テラス法はセル圧着部の引張抵抗力で、滑落・作業荷重を天端部構造物(コンクリート/アンカー等)に伝達する工法です。

引張強度(抵抗力)の照査はハイフレームの最上部のみで行っていますが、中間部でハイフレームを追加する場合は、ハイアンカーを施工して仮天端構造物としています。これは、ステープル止は“応力”を伝達できないとしているからです。

ステープル止に変わり“応力の伝達が可能”な部品でステープル部を補強する場合は、ハイフレームは1枚ものと同様として施工できます。

一例として、写真の様な丸網Uクリップは、上記機能を有する部材です。

参考写真

